

1915
2020.5.22

大阪教育

発行・大阪教職員組合
〒543-0021 大阪市天王
寺区東高津町7-11
大阪府教育会館7F
TEL 06-6768-2330
FAX 06-6768-2239
daikyoso@daikyoso.jp
毎月10日発行/1部30円
(組合員は組合費を含む)
/編集発行人・藤川真人
/印刷・関西共同印刷所

教員採用選考学習会
めざとも



申し込み
申し込み

第2回 6月13日(土) 第3回 6月21日(日)
場所 たかつガーデン(府教育会館)
時間 13:30~ ※新型コロナ対策のため、延期・中止の場合もありま
す。詳細・申し込みは大阪教職員組合Webページで。



今こそ安心して学べる学校を!

～教育条件の改善と、子どもの実態に即した学校づくりを～



教育課程づくりのために(日常に戻っても)

教育センター提言より(<https://osaka-kyoubun.org/archives/2885>)

1 子どもたちには何が必要かを考える



私たちは1年間の授業計画を立てています。その中から、子どもたちに伝えるべきことを考えて精選し、年度末までの授業計画を作成します。完璧でなくとも、授業は子どもたちの姿に応じて変化していくものです。実践の中で柔軟に変えていくことで十分に対応できます。

2 父母・保護者の理解と合意を

長引く休校での保護者の不安を受け止めたうえで、「大丈夫です。」と授業計画とともに伝えることで、理解してもらい、納得してもらえます。学校と保護者がともに子どもたちを守り育てるためにも、保護者の理解と合意を得ることで、信頼関係を深めていきます。



3 教職員の合意づくりを



この混乱の中で職員室のみんなが困っています。声をかけて、共に学校としての教育課程をつくる中で、校長も巻き込んだ学校としての合意が形成できるはず。それは、ゆくゆくは子どもたちの過重な学習負担の軽減、教職員の過重な労働の軽減につながります。

この混乱の中で職員室のみんなが困っています。声をかけて、共に学校としての教育課程をつくる中で、校長も巻き込んだ学校としての合意が形成できるはず。それは、ゆくゆくは子どもたちの過重な学習負担の軽減、教職員の過重な労働の軽減につながります。

教育環境の改善が必要
行政の通知などにふりまわされ、子どもたちも保護者も、教職員も疲弊している状況が続く中、学力保障に関して不安をおぼる報道が多く見られます。そんな中で、一長期休業削減「9月入

学「オンライン教育」など、子ども不在の様々な意見がメディア、政治家などにより無責任に飛び出しています。しかし、そもそもこれまでの劣悪な教育条件、学校の教育状態を行政が放置してきたことが、このコロナ災害時に影響しているのです。付け焼刃

大阪府では「適正規模」「切磋琢磨」の名の下に学校の統廃合が進められようとしています。しかし、他県では、感染拡大防止と通常の学校生活とを両立できる小規模校

この混乱の中で職員室のみんなが困っています。声をかけて、共に学校としての教育課程をつくる中で、校長も巻き込んだ学校としての合意が形成できるはず。それは、ゆくゆくは子どもたちの過重な学習負担の軽減、教職員の過重な労働の軽減につながります。

業計画を考慮しておけば、時間的余裕をもって子どもたちに向きあうことができます。特に入試を控えた最終学年については、休校措置分のフォローや学習補助にも取り組むことができま

復活の日々学校再開に向けて
文科省・地教委には標準授業時数を確保することのみを重視して学校現場に強制力を働かせるのではなく、子どもたちの実態に即した教育課程編成を学校が柔軟に行えるような支援が求められます。それこそ今の行政が取り組むべきことです。

登校日が設けられ、子どもたちの声が学校に戻ってきました。久々に子どもたちの顔を見て安心された先生も多いのではないのでしょうか。無責任な休校要請から3か月近く経ち、学校再開が近づいてきています。様々な思いや不安を抱いた子どもたちを、私たちは学校で迎え入れます。登校日などの機会に、子どもたちが休校期間に抱いていた思いや、再開後に学校でしたいことなどを手紙などで聞いてみるという取り組みで、子どもたちと私たち教員が繋がりを持つことが大切ではないでしょうか。



的施策ではなく、次のような教育条件の改善を求めていくべきです。

も存在し、府の「適正規模」は全く当たらないものです。

文科省の「学力保障」は、「学習指導要領の完全な遂行」に縛られたものです。学力保障は必要ですが、子どもの実態把握とケアを伴う学校生活再開の方が重要です。そのためにも、「標準授業時数ありき」の対応は現実的ではありません。

この点を私たち教職員の専門性を発揮することで解消できないでしょうか。一つの例ですが、大阪教育文化センターの提言を見てみましょう。

文科省・地教委には標準授業時数を確保することのみを重視して学校現場に強制力を働かせるのではなく、子どもたちの実態に即した教育課程編成を学校が柔軟に行えるような支援が求められます。それこそ今の行政が取り組むべきことです。

新型コロナウイルス感染症の広がりの中で、教職員も、父母も、子どもたちも苦しんでいる。今、政治に求められていることは、国民のくらしにしっかりと寄り添い、安心できるような生活支援、休業補償を機敏に行うことだ。ところが安倍総理の記者会見は、国民を守る熱意も能力もなく、官僚の作文を棒読みするしかない姿をさらけだしている。情けない限りだ。そんな安倍総理が唯一、熱意をこめて語るのが、改憲の訴えだ。コロナ危機という機会に乗じて、日本会議に向けてのビデオメッセージで、ここぞとばかり改憲を叫ぶ。こんなことは絶対に許せない。コロナ危機に対する対応が、後手後手に回っているのは、決して憲法のせいではない。安倍内閣の責任だ。憲法を変えなくても、いくらでも国民は守れる。NHKの世論調査では、8割の国民が、憲法よりも、他の課題に取り組んでほしいと表明している。他紙も、安倍政権の下での改憲には反対が多数だ。国民の多数は、安倍総理を信頼していない。「信なくば立たず」という言葉をかみしめ、改憲への妄執を捨て、今こそ国民の命とくらしを守るために立ち

(KM)

VOICE

離れていても心はひとつ

小学校 青年教職員 Aさん

喜びと不安、2つの思いのなかで分散登校が始まりました。登校初日は、先生たちみんな、子どもたちを明るく迎えました。はじめに、学年開きの時間をもち、「離れていても心はひとつ」という思いを確かめました。「今はつらいことや苦しいこと、我慢がたくさんあるし、いつ



全員揃って出会うかもわからない。でも、一人じゃないから、みんな一緒だからね。」と話しました。そして、「子どもたちの今の気持ち」を自由に綴ってもらいました。「さびしかったけど、今日先生やみんなに会えてとてもうれしかった。それができました。」

たです。コロナウイルスがおさまったら他のグループの人たちとも会えるのかなって思います。「家にずっといたらつまんなかったけど、今日学校に来て楽しかったし、みんなの顔見て元気でうでよかった。」「コロナにかかりたくない。みんなと遊びたい。」など、素直な思いを伝えてくれました。初日に感じたあの独特な緊張感も忘れられませんが、出会えたからこそ、子どもたちの気持ちを知ることができました。

湧水

新型コロナウイルス感染症の広がりの中で、教職員も、父母も、子どもたちも苦しんでいる。今、政治に求められていることは、国民のくらしにしっかりと寄り添い、安心できるような生活支援、休業補償を機敏に行うことだ。ところが安倍総理の記者会見は、国民を守る熱意も能力もなく、官僚の作文を棒読みするしかない姿をさらけだしている。情けない限りだ。そんな安倍総理が唯一、熱意をこめて語るのが、改憲の訴えだ。コロナ危機という機会に乗じて、日本会議に向けてのビデオメッセージで、ここぞとばかり改憲を叫ぶ。こんなことは絶対に許せない。コロナ危機に対する対応が、後手後手に回っているのは、決して憲法のせいではない。安倍内閣の責任だ。憲法を変えなくても、いくらでも国民は守れる。NHKの世論調査では、8割の国民が、憲法よりも、他の課題に取り組んでほしいと表明している。他紙も、安倍政権の下での改憲には反対が多数だ。国民の多数は、安倍総理を信頼していない。「信なくば立たず」という言葉をかみしめ、改憲への妄執を捨て、今こそ国民の命とくらしを守るために立ち

(KM)